

めぐみニュース

おゆうぎ会(12月7日)

今年のおゆうぎ会は、感染症が流行する中ではありましたが、保護者の皆さまのご理解とご協力のおかげで、無事に開催することができました。子どもたちはこの日をとても楽しみにしており、たくさんの方にお越しいただき、拍手と温かい応援、本当にありがとうございました。

私たちは、おゆうぎ会当日がゴールではなく、そこに至るまでの過程を大切にしています。日々の練習の中で、子どもたちはそれぞれに楽しみ方を見つけ、練習以外の時間にもステージに上がって踊ったり、表現を楽しんだりする姿が見られました。

本番では、自信をもって踊る子もいれば、緊張して思うように動けなかった子もいましたが、その一つひとつが大切な成長の姿だと思います。

おゆうぎ会が終わった後も、子どもたちの中にはまだまだ余韻が残っており、ステージに上っては「せんせい、曲かけて～！」と楽しんでいましたよ。

お馬とサンタがやってきた！！(12月18日)

この日、子どもたちが戸外遊びを楽しんでいると、向こうからトナカイならぬお馬と人のサンタさんが遊びに来てくれました。来てくださったのは、十和田乗馬俱楽部の一戸さんたちと、イザム君、ランマル君、ラン君の3頭です。急なサプライズに子どもたちは驚きながらも大喜びでした。お馬さんは素敵なプレゼントを運んできてくれ、嬉しそうにプレゼントを受け取っていましたよ。間近で見る馬の大きな体と表情に、少しドキドキしながらも、目を輝かせてみていた子どもたちの姿が印象的でした。にんじんやりんごをあげる体験もし、馬のぬくもりや息づかいを感じながらの貴重な体験となりました。

年長児さんは乗馬体験もさせて貰いました。乗り心地をきくと、「揺れて、ちょっと怖かった」「毛が気持ちよかったです」「可愛かった」などと、感想を言っていました。素敵なお馬のクリスマスプレゼントになりました。十和田乗馬俱楽部様、ありがとうございました！



おもちつき会(12月27日)

うぐいすたちが田んぼプロジェクトで苗から育て、刈り取りや脱穀を行ったもち米を使って、おもちつきをしました。

はじめにお正月のお話や、みんなで育てた稻の思い出を振り返りました。餅つきが始まると、蒸し上がったもち米の良い香りに「おいしそう」「早く食べたい」と、子どもたちの声が聞こえてきました。

泉山さんの、力強い餅つきに合わせて「よいしょ！よいしょ！」と、ひよこさんやかなりやさんたちも声をそろえて応援してくれました。年長さんから順番に重い杵を持ち上げて餅つき体験をしました。年長児はお供え餅作りや、しめ縄作りにも挑戦し、稻や藁が昔の暮らしに大切に使われてきたことを知る良い機会となりました。

鱈をおろす(12月12日)

この日のメニューは「たらのじゃっぱ汁」。いつもお魚を納品してくださる「三共魚屋」さんが来て、子どもたちの目の前で鱈を三枚におろす様子を見せていただきました。鱈が登場すると、普段見ることのない1匹そのままの姿や、切り落とした頭や内臓もじっくりと見て貰い子どもたちは釘付けでした。

鱈の口元についている髭のようなものを見て「これはなに？」と、子どもたちから興味津々なつぶやきが聞こえてきました。

あつというまに三枚におろされ、三共魚屋さんの手際の良さに、「もうできたの」「はやいね～」などと、歓声も上がっていましたよ。

このような体験を通して、私たちは、食べ物がどこからきて、どのように食卓に届くのかを、子どもたちなりに感じることを大切にしています。「命をいただいている」ということを、難しい言葉で伝えるのではなく、見て、知って、触れる中で、自然と食への感謝の気持ちが育つことを願っています。



可愛いつぶやき

「しもばしら」

ある日の朝の自由遊びの時間。大きいクラスの子どもたちがひろばで遊んでいると、「先生、こっちに来てー！」と元気な声が聞こえてきました。行ってみると、年長児を中心に、年中・年少児も集まり、夢中になって土を掘り返していました。

「しもばしらがあるよ！」という年長児の一声に、子どもたちが次々と集まってきた。その言葉を聞いた年少児さんたちも、「しもばしらだよ」と、覚えた言葉を口にしながら、嬉しそうに土を掘っていました。年少児さんはとにかく掘るのに対し、年長児さんたちは霜柱が折れないようにそっと、できるだけ大きいものを掘り起こし大切そうに集めていました。集めた霜柱を入れ物に並べながら、年長の男の子が「太陽に当てる見ると、光ってきれいに見えるんだよ」と教えてくれました。陽の光を受けてキラキラと輝く霜柱を見て隣にいた年長の女の子が「宝石みたいだね」と、話していました。冬の朝ならではの自然の不思議に触れ、年齢の違う子どもたちが同じ発見を共有し、言葉や気持ちを分かち合う、心あたたまるひとときでした。



南さんの手作りおもちゃで遊ぼう

八戸学院野辺地西高等学校の講師、南 豊先生が来園し、手作りのUFOキャッチャーを持ってきてくださいました。使い方を子どもたちに伝えると、さっそく年長児さんたちが遊び方を考え、「1回10円」と決めて、順番を守りながら楽しく遊んでいました。置かれているテニスボールを掴むために、上下、左右、前後、さらに掴む、離すと、工程が多いのですが、子どもたちは賢ですね、直ぐに使い方をマスターして遊びこなしていましたよ。

また別の日には、「空飛ぶタヌキ？キツネ？ブタ？」と、赤いキツネや緑のタヌキのカップ麺の容器を使ったサイエンスショーを見せてくださいました。宙に浮かぶ様子に、子どもたちは「どうして浮くの？」「おもしろい！」などと目を輝かせ、不思議に思う気持ちを膨らませていました。

掃除機の仕組みは少し難しい内容でしたが、洗濯機の排水ホースを使って、遠心力によってごみが吸い込まれる様子を実際に見せてもらいました。目の前で起こる現象に、子どもたちはもちろん、職員も「なるほど！」と驚きと不思議を感じ、夢中になって見入っていましたよ。身近な物を使った体験はとても楽しく、学びのある時間となりました。遊びを通して、考える楽しさや驚きの気持ちを大切にしたいと思います。

